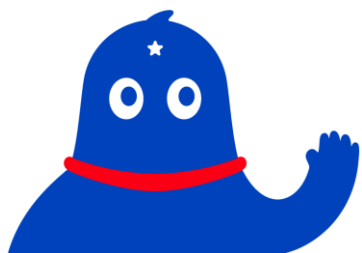


2027年3月期 第1四半期 決算補足資料 (2026年4月－2026年6月)

2026年8月4日

Umios 株式会社 (TSE : 1333)



- ・ 営業利益は67億円（前年同期比29.4%減）も、計画を上回り※1想定どおりの進捗。
 - ・（国内）水産物相場の上昇や円安による原価上昇に対し、コスト削減などを推進したものの、国内消費の弱含みがあり価格転嫁が十分に進まず減益。
 - ・（海外）主に為替影響により減益。欧州事業、ペットフード事業の販売は堅調。
- ・ 親会社株主に帰属する四半期純利益は34億円（前年同期比47.3%減）。
 - ・ 特別利益は、政策保有株式や固定資産の売却などにより前期並みの21億円を計上。
 - ・ Umiosロジ売却に伴う税金費用として一時的に△17億円計上（2Q売却実現時に影響軽減予定）。
- ・ 下期にかけて前年同期比での増益を見込む計画。
 - ・ 加工食品（国内）は価格改定効果及び販促実施による収益改善を見込む。
 - ・ 加工食品（海外）は今後、為替影響が改善想定。加えてペットフード事業の販売強化により1Q減益の挽回を見込む。

第1四半期中の東情勢影響は限定的

為替レート	27年3月期 1Q	26年3月期 1Q
米ドル	156.48円	152.95円
ユーロ	183.73円	160.74円
タイバーツ	4.94円	4.51円

※1 四半期毎の営業利益計画はP.16に記載

(単位：億円)	27年3月期 1Q	26年3月期 1Q	前年同期比	
			増減	増減率
売上高	2,776	2,636	+140	+ 5.3%
営業利益	67	94	△28	△29.4%
営業利益率	2.4%	3.6%	△ 1.2pt	—
経常利益	64	93	△29	△31.3%
親会社株主に帰属する 四半期純利益	34	65	△31	△47.3%

27年3月期 通期計画	計画進捗率
11,100	25.0%
320	20.8%
2.9%	—
300	21.4%
150	22.8%

営業利益の増減分析（前年同期比）



（単位：億円）



2027年3月期1Q 概況：水産資源セグメント



・事業構造改革の効果による貢献や販売好調も、高収益商材（メロ）の販売期ずれ及び川下（カニカマ商品）のコスト増加により減益。

(単位：億円)	27年3月期 1Q	26年3月期 1Q	前年同期比	
			増減	増減率
売上高	299	260	+39	+14.9%
漁業	81	80	+1	+1.1%
養殖	22	18	+4	+20.2%
北米	196	162	+34	+21.1%
営業利益	4	8	△4	△50.4%
国内	△3	△0	△2	—
海外	7	8	△1	△17.0%
営業利益率	1.3%	2.9%	△ 1.7pt	—

Topic 中東情勢による業績への影響は限定的

- ・影響の大きい漁業事業において、燃油代のコスト増加影響を操業スケジュールの調整や販売単価の上昇により打ち返した。
- ・2Q以降も同様の見込み。

ユニット別 要因分析

漁業	売上高 ↑	営業利益 ↑
前期実施の構造改革（操業効率向上など）の効果により漁獲増も、高収益商材（メロ）の販売期ずれにより売上、利益ともに前年並み。		
養殖（関係会社養殖事業、飼料事業など）	売上高 ↑	営業利益 ↓
飼料の取扱数量及び単価上昇も、生産原価増により利益圧迫。 （養殖魚の販売部門は水産商事ユニットへ移管）		
北米	売上高 ↑	営業利益 ↓
川上（すりみ・フィレ）の販売は好調も、川下（カニカマ商品）におけるコスト増加により減益。		

年間計画達成に向けた見方

【営業利益率: 1Q 1.3% → 通期計画2.3%】

漁業	・構造改革を継続推進し、収益改善。 ・海外漁業が好調。2Q以降に実績貢献。
養殖	・吸収分割による事業シナジー。 ・飼料コストの低減及び給餌方法の効率化を推進。
北米	・スケソウダラの漁獲並びにすりみ・フィレなどの販売が好調。 ・魚粉高で飼料事業に追い風。

2027年3月期1Q 概況：食材流通セグメント



- ・（国内）水産物相場の上昇などによる原価上昇を、消費減退により価格転嫁しきれず減益。
- ・（欧州）グループ会社間連携強化を背景とした販売数量増加により増益。

(単位：億円)	27年3月期 1Q	26年3月期 1Q	前年同期比	
			増減	増減率
売上高	1,962	1,856	+106	+5.7%
水産商事	1,165	1,051	+114	+10.8%
食材流通	601	610	△9	△1.4%
農畜産	195	194	+1	+0.4%
営業利益	37	45	△8	△17.8%
国内	20	31	△11	△35.0%
海外	17	14	+3	+20.4%
営業利益率	1.9%	2.5%	△ 0.5pt	—

Topic 欧州事業は堅調に推移し、UFGE※1グループは増益を達成

- ・ 白身魚を中心に水産物相場が上昇したことを背景に、安価な白身魚（パンガシウス）の販売が好調。
- ・ 前期グループ入りしたVDL ※2グループは、白身魚のフライ製品などをUFGEグループ各社と連携しながら効率良く生産し、収益に貢献。
- ・ UFGE株式を100％まで追加取得（+30％）したことにより、グループガバナンス強化及び成長戦略の加速に貢献。

ユニット別 要因分析

水産商事

売上高 ↑ 営業利益 ↓

国内：水産物の販売価格上昇により増収も、消費減退により価格転嫁しきれず減益。今期より養殖ユニットから移管した養殖魚の販売部門は利益率が改善。
欧州：既存取引の拡大及びグループ会社間の連携強化を背景に収益拡大。

食材流通

売上高 ↓ 営業利益 ↓

グループ内連携の強化を推進。また、給食業態への販売拡大や商材の選択と集中を進めたものの、コスト上昇分を補いきれず減益。

農畜産

売上高 ↑ 営業利益 ↓

畜産物が原価上昇するも十分に価格転嫁できず減益。付加価値商品（加工品）モデルへの構造改革は着実に推進中。

年間計画達成に向けた見方

【営業利益率: 1Q 1.9% → 通期計画2.3%】

国内

在庫の最適化を進め、BtoB向け加工品は業務効率化と価格改定によりコストを吸収。また、グループ内仕入れの拡充やユニット連携での外食・給食業態に向けた取組みを強化し、セグメント全体での利益拡大を図る。

欧州

グループ各社との連携を強化し、調達・加工・販売機能を活用したさらなる事業領域の拡大及び収益力向上を図る。

※1 Umios Food Group Europe B.V.
※2 Van der Lee Seafish Beheer B.V.

2027年3月期1Q 概況：加工食品セグメント



- ・（国内）市販用冷凍野菜の円安影響及び販売減。
- ・（海外）主に為替影響による減益。ペットフード事業の販売は堅調。

(単位：億円)	27年3月期 1Q	26年3月期 1Q	前年同期比	
			増減	増減率
売上高	463	468	△5	△1.1%
加工食品	439	446	△7	△1.6%
ファインケミカル	24	22	+2	+9.0%
営業利益	21	39	△18	△45.2%
国内	5	12	△6	△55.2%
海外	16	27	△11	△40.9%
営業利益率	4.6%	8.3%	△ 3.7pt	—

ユニット別 要因分析

加工食品

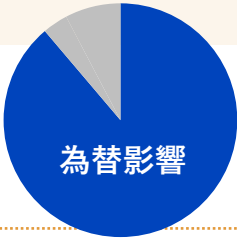
売上高 ↓ 営業利益 ↓

国内：市販用冷凍野菜の円安影響及び販売減などが収益を圧迫。一方、価格改定効果により、冷凍食品事業の主力商品の営業利益率は計画対比で約1ポイント改善。
海外：主な減益は為替影響によるもの。ペットフード事業の販売は数量・金額ともに堅調。

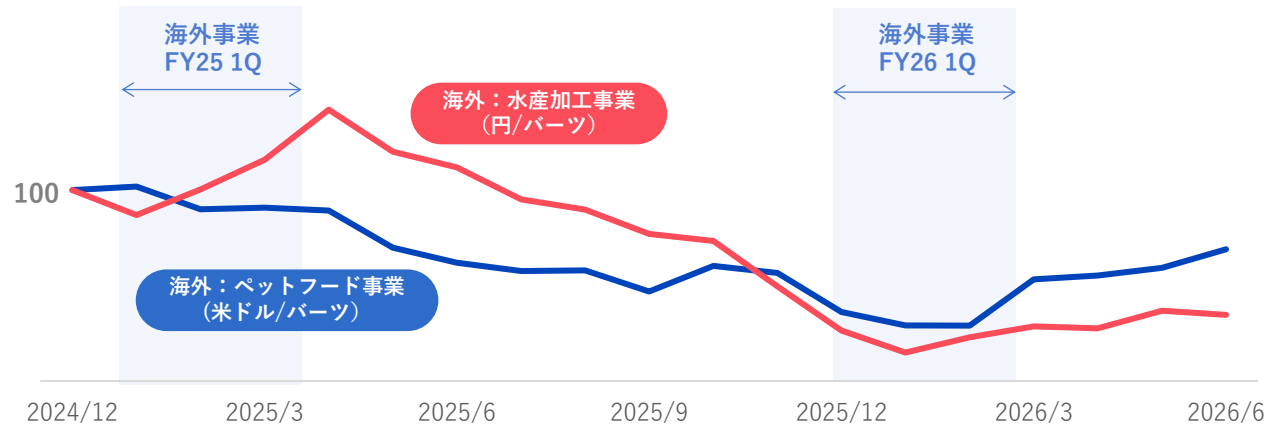
ファインケミカル

売上高 ↑ 営業利益 ↑

健康食品向け素材の販売好調。
今後、ペルー沖アンチョビの不漁に伴うコスト高が懸念される。



参考 為替推移 (2024/12 = 100)



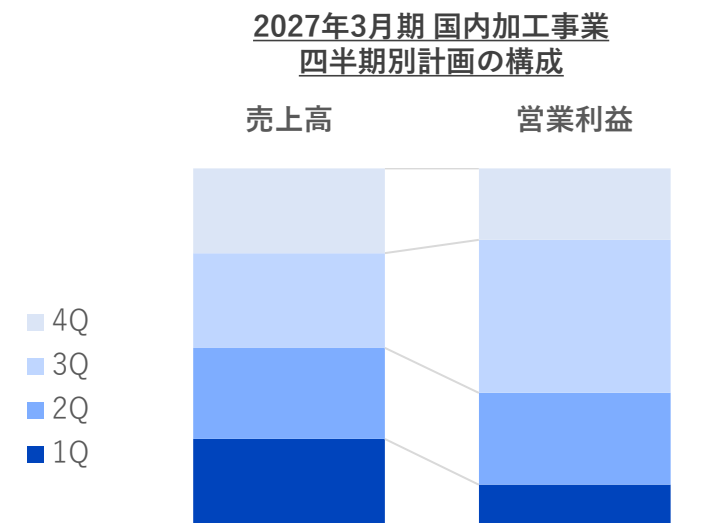
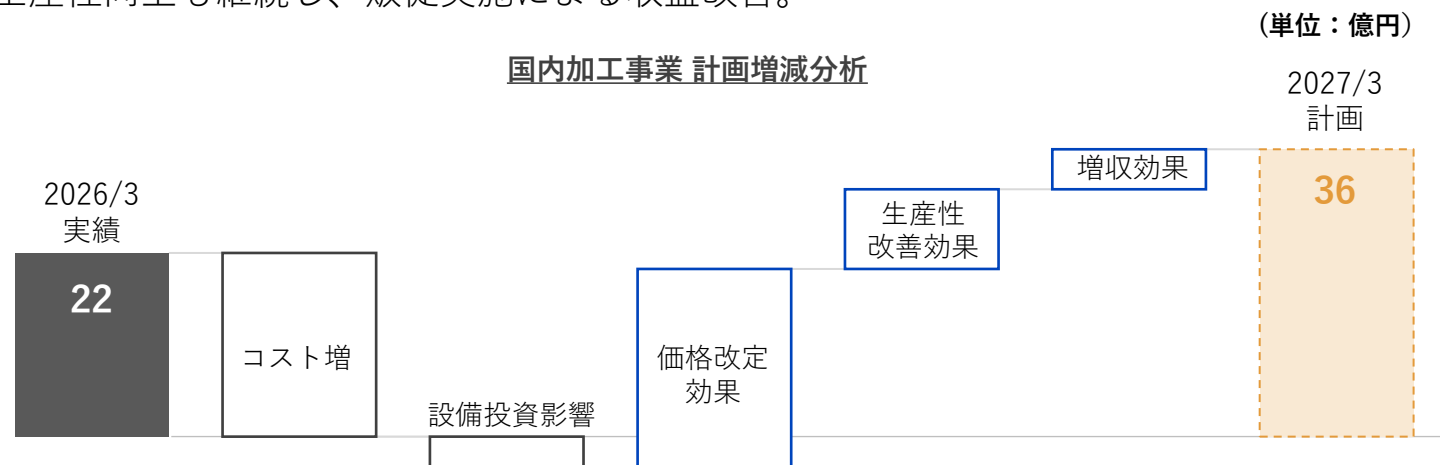
(単位：パーツ)

	2024/12	2025/3	2025/6	2025/9	2025/12	2026/3	2026/6
1米ドル/パーツ	34.35	33.98	32.78	32.16	31.72	32.42	33.08
指数	100	98.9	95.4	93.6	92.3	94.4	96.3
100円/パーツ	22.57	23.00	22.89	21.95	20.58	20.64	20.80
指数	100	101.9	101.4	97.3	91.2	91.4	92.2

出所：Bank of Thailand

国内事業：営業利益は下期偏重型の計画

- ・販売数量増ならびに価格改定の浸透によりコスト増を吸収。
- ・生産性向上も継続し、販促実施による収益改善。



海外事業：ペットフード事業の販売好調により、1Q減益影響を打ち返す

ペットフード事業

- ・ペットフード事業は現地通貨ベースでは販売数量・金額ともに好調。
- ・2Q以降の為替は改善想定。
- ・成長市場であるアジア向けに販売を拡大 (P.10)。

水産加工事業

- ・付加価値製品へのシフトを加速させ、収益性向上に努める。

(トピックス) 漁業ユニット：持続可能な事業運営に向けて

- ・ 漁業ユニットは、収益体質強化に向けた構造改革の仕上げのフェーズへ。
- ・ 資源管理が徹底された持続可能な漁業により、中長期的な企業価値の創出に貢献。

現在：

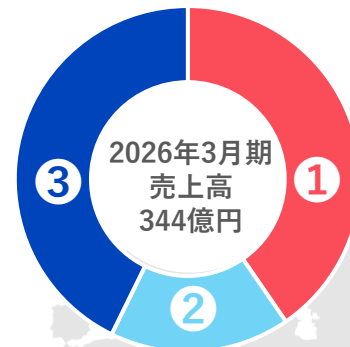
- ・ 操業効率改善及び不採算事業の縮小撤退などによりユニット全体での安定収益が拡大。
- ・ **売上高の約60%が安定的な収益基盤。**
- ・ 一部事業での収益性改善・強化を継続推進。

目指す姿：

- ・ **持続可能な漁業資源を生かしたグローバル競争優位性の確立。**
- ・ Umiosグループに向けた水産タンパク質の安定供給力強化。

実行すべきこと：

- ・ 事業の選択と集中の継続。
- ・ 新船投入などによる操業効率向上・コスト縮減。
- ・ グループの川下領域との連携強化による収益率向上と付加価値化。



漁獲不安定や燃料コスト高が継続も、収益性改善中

① 大洋エーアンドエフグループ

漁業海域：日本EEZ、南西太平洋、北南米 ほか
魚種：マグロ、カツオ、メロ、イワシ ほか

高級魚メロの安定漁獲・販売により高収益

③ Austral Fisheries

漁業海域：オーストラリアEEZ
魚種：メロ、エビ ほか

操業効率の改善などにより収益拡大中

② Maruha(N.Z.) Corporation

漁業海域：ニュージーランドEEZ
魚種：イカ、アジ、ホキ ほか

(トピックス) 北米ユニット：業績及び今後の成長戦略



1Q 営業利益は前年同期比で減益も、計画対比では好調

(川上) 順調な漁獲、堅調な相場を背景にスケソウダラ製品（すりみ・フィレなど）の販売が順調。

(川下) 販促活動の成果によりカニカマ商品の販売数量が増加。

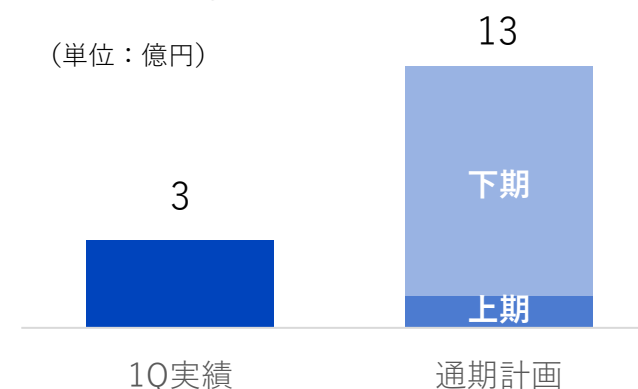
2Q以降も好調な販売が継続

(川上) 相場上昇が想定されるスケソウダラ製品の販売単価アップと加工工場での最適なプロダクトミックス（すりみ・フィレの配分）・要員配置を推進し、高収益を確保。

(川下) カニカマ新商品の販路拡大と配合変更などによるコスト削減を推進。

2027年3月期
1Q実績と通期計画の比較

(単位：億円)



① カニカマ新商品の投入と販売拡大

- ・新たな顧客層の開拓・シェア拡大のため、フレーバーを加えた新商品を投入。
- ・量販店の品質評価も高く、販売拡大中。

② 新たな量販店の開拓

2025年末からTrader Joe'sにも商品納入をスタート、高評価を獲得。

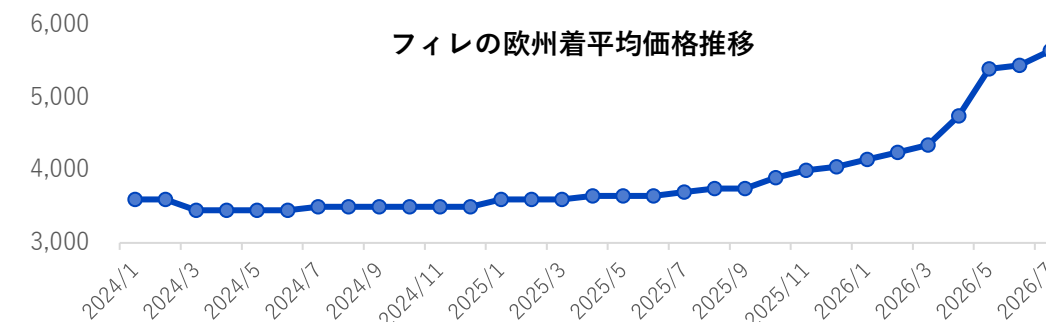


ガーリックバター風味の新商品

参考 フィレ相場と今後の川下戦略

- ・フィレ相場は、米国内の堅調な消費に加え、欧州での高い需要を背景に堅調を維持。
- ・今後、川下領域の強化、加工・流通領域でのM&Aなどを検討。

(米ドル/トン)



出所：Undercurrent News (Pine Bone Outの推移)

(トピックス) 加工食品ユニット：ペットフード事業の今後の成長戦略



- ・ペットフード事業を成長事業と位置づけ、積極的な投資を実行していく。
- ・未参入だった東南アジアでの事業基盤を獲得し、世界的にも成長市場であるアジア市場での競争力を強化。

Pet World International (PWI) を連結子会社化※1

連結売上高：124億円（売上高CAGR※2 11.3%）

取得比率：51% 取得価格：約113億円※3

アジアでのグローバル戦略加速

- ・猫向けウェットフードを主軸とする既存事業に、犬/猫向けドライフードを強みとするPWIを迎えることで、猫/犬×ウェット/ドライの全方位での商品提供体制を確立。

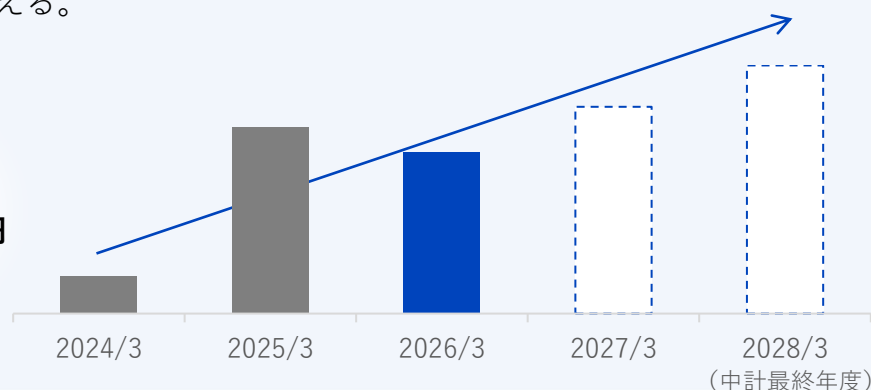
グループ内連携強化

- ・水産資源セグメントの調達力を活用したバリューチェーンの強化を推進。
- ・DHAによる腎機能配慮型フードをはじめとした応用研究の深化により、ペットの健康寿命を支える。

ペットフード事業
中計最終年度目標

営業利益 約100億円

ROIC 約18%



- ① **AIXIA**
 - ・日本国内 猫向けウェットフードシェア 第3位。
 - ・DHAなど機能性素材を活用した健康付加価値商品が強み。
- ② **シーバック KINGFISHER HOLDINGS LIMITED**
 - ・主に北米と欧州向けにプレミアムフードをOEM製造。
 - ・持続可能な調達・生産体制を確立。
- ③ **PETWORLD**
 - ・マレーシア内 ペットフードシェア 第2位。
 - ・価格訴求品から高栄養・高機能品までを網羅する加工技術力。

- ・ ROICに連動したポートフォリオ評価を強化・徹底。
- ・ 現中期経営計画で掲げた事業ポートフォリオの最適化は順調に進捗。

1Qの取組み

**事業の持続可能性を考慮して
ベストオーナー、ベストパートナーとの協業によるポートフォリオ最適化を推進。**

Umiosロジ株式51%譲渡（2026年9月1日付）

- ・ センコーグループホールディングス様をベストオーナーと判断し、物流機能のさらなる強化を実現。
- ・ 総資産 約500億円・有利子負債 約300億円圧縮。
- ・ Umiosロジは当社グループにおける重要な物流機能であり、引き続きグループ内での連携を強化。



Umiosロジ（株）川崎第一物流センター

2Qの取組み

グループシナジー強化に向けて取組みを実施。

連結子会社の大洋エーアンドエフの養殖事業および加工食品事業を吸収分割によりUmiosへ承継。（2026年10月1日付）

- ・ 引き続き漁業は資源管理に基づく持続可能な事業運営体制に向けて強化を推進。



大洋エーアンドエフ（株）仙崎事業所（提供:山口県長門市）

連結損益計算書



	(単位：億円)			
	27年3月期 1Q	26年3月期 1Q	増減	
売上高	2,776	2,636	+140	① 営業外費用（前年同期比+2） ・ 支払利息 13億円（前年同期比+4） ・ 為替差損 6億円（前年同期比△2）
売上原価	2,389	2,251	+138	
売上総利益	387	385	+2	
販売費・一般管理費	320	291	+30	② 特別利益（前年同期比+2） ・ 固定資産売却益 17億円 （前年同期比+16） ・ 投資有価証券売却益 4億円 （前年同期比△14）
営業利益	67	94	△28	
営業外収益	19	19	+0	
営業外費用	21	19	+2	③ 法人税等（前年同期比+13） ・ Umiosロジ売却に伴う税金費用として 一時的に17億円計上 （2Q売却実現時に影響軽減予定）
経常利益	64	93	△29	
特別利益	21	18	+2	
特別損失	2	1	+1	
税金等調整前四半期純利益	84	111	△28	
法人税等	43	30	+13	
非支配株主に帰属する四半期純利益	6	16	△10	
親会社株主に帰属する四半期純利益	34	65	△31	

連結貸借対照表



(単位：億円)

	26年6月末	26年3月末	増減	主な内容（前期末比）
流動資産	4,793	4,575	① +218	現預金（△58）、売上債権（+24） 棚卸資産（+222）
固定資産	2,957	2,942	+14	有形固定資産（△7）、無形固定資産（△2） 投資有価証券（+9）
資産合計	7,750	7,517	+233	
流動負債	3,033	2,813	② +220	仕入債務（+9）、短期借入金（+222） コマーシャルペーパー（+10）
固定負債	1,827	1,789	+38	長期借入金（+22）
負債合計	4,860	4,602	+258	
株主資本	2,011	2,036	△25	利益剰余金（△8）
その他包括累計	447	437	+10	
非支配株主持分	433	443	△10	
純資産合計	2,890	2,915	△25	
負債純資産合計	7,750	7,517	+233	
有利子負債	3,323	3,069	+254	
ネットD/Eレシオ	1.2倍	1.0倍	+0.2	
自己資本比率	31.7%	32.9%	△ 1.2pt	

- ① 流動資産（前期末比+218）
・ 棚卸資産 2,669億円（前期末比+222）
- ② 流動負債（前期末比+220）
・ 短期借入金 1,596億円
（前期末比+222）
・ 長期借入金 917億円（前期末比+22）

連結キャッシュ・フロー計算書



(単位：億円)

	27年3月期 1Q	26年3月期 1Q	増減	主な内容
営業活動による キャッシュ・フロー	△194	△41	① △154	・税金等調整前四半期純利益 (84) ・減価償却費 (のれん含む) (50) ・固定資産売却損益〈益：△〉 (△17) ・売上債権の増減額〈増加：△〉 (△23) ・棚卸資産の増減額〈増加：△〉 (△218) ・仕入債務の増減額〈減少：△〉 (2) ・法人税等の支払額 (△48)
投資活動による キャッシュ・フロー	△8	△126	+117	・有形固定資産の取得による支出 (△56) ・有形固定資産の売却による収入 (34) ・利息及び配当金の受取額 (7)
財務活動による キャッシュ・フロー	152	190	△38	・短期借入金の増減額〈減少：△〉 (161) ・長期借入金の増減額〈減少：△〉 (78) ・コマーシャルペーパーの増減額〈減少：△〉 (10) ・配当金の支払額 (△42) ・利息の支払額 (△17)
現金・現金同等物の 期末残高	473	489	△16	—

① 営業キャッシュ・フロー (△154)

主因：

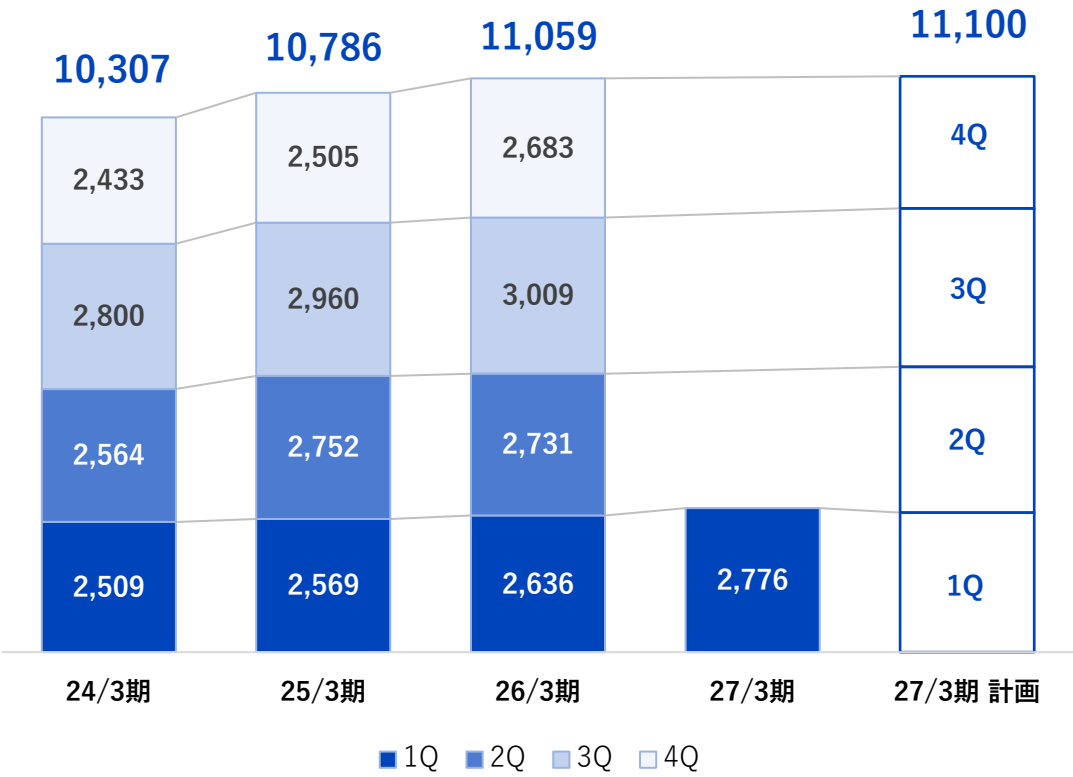
- ① 季節性
- ② 原材料高・製品相場上昇による棚卸資産の増加
- ③ 税金等調整前四半期純利益の減少

改善に向けた取組み：

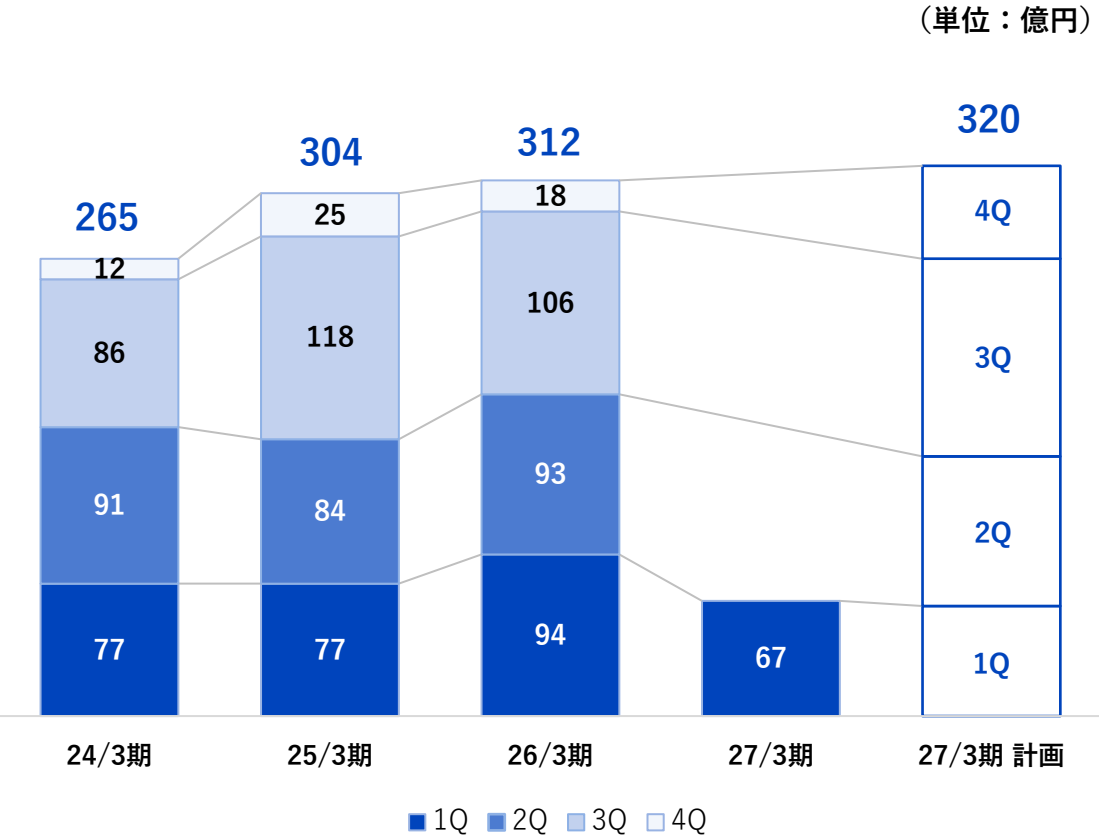
- ① 収益力の強化
- ② 棚卸資産の最適化
 - ・資金キャップ制の本格運用開始 (資本管理感度を人事評価に連動)
 - ・若手従業員向け運転資本ワークショップの実施

Appendix

売上高



営業利益



セグメント・ユニット別 四半期別実績

セグメント・ユニット別の過去2年実績推移
(Excel形式)ダウンロードは[こちら](#)から



(単位：億円)	2027年3月期					
	売上高			営業利益		
	1 Q	通期計画	進捗率	1 Q	通期計画	進捗率
漁業ユニット	81	341	23.8%	0	13	0.7%
養殖ユニット	22	102	21.2%	1	2	45.0%
北米ユニット	196	772	25.4%	3	13	21.5%
水産資源セグメント 計	299	1,215	24.6%	4	27	14.0%
国内	135	498	27.1%	△ 3	△ 5	—
海外	164	717	22.9%	7	32	20.8%
水産商事ユニット	1,165	4,537	25.7%	28	123	22.8%
食材流通ユニット	601	2,475	24.3%	9	49	18.3%
農畜産ユニット	195	687	28.4%	0	8	6.0%
食材流通セグメント 計	1,962	7,700	25.5%	37	179	20.9%
国内	1,568	6,083	25.8%	20	107	19.1%
海外	394	1,616	24.4%	17	72	23.7%
加工食品ユニット	439	1,885	23.3%	18	117	15.1%
ファインケミカルユニット	24	94	25.2%	4	12	29.5%
加工食品セグメント 計	463	1,979	23.4%	21	129	16.4%
国内	298	1,269	23.5%	5	48	10.9%
海外	164	710	23.1%	16	82	19.5%
その他	53	206	25.6%	4	△ 16	—
合計	2,776	11,100	25.0%	67	320	20.8%
国内	2,051	8,048	25.5%	25	131	19.3%
海外	725	3,052	23.8%	41	189	21.9%

Thank You



- 当資料に記載されております計画や見通し、戦略など歴史的事実でないものは将来の業績に関する見通しであり、これらは現時点で入手できる情報から得られた判断にもとづいております。実際の業績は様々な重要要素により、これらの見通しとは異なる結果をもたらしうることをご承知おきください。
- 本資料には監査を受けていない概算値を含むため、数値が変更になる可能性があります。
- 本資料の著作権やその他本書にかかる一切の権利はUmios株式会社に属します。

【資料のお問い合わせ先】

Umios株式会社 経営企画部IRグループ
ir-info@umios.com

